

総合計画審議会がスタート

現在、町では平成21年度から始まる新たな総合計画の策定のため、まちづくり町民検討会議や庁内組織で協議を重ねるなど、取り組みを進めていますが、具体的な計画を審議するために総合計画審議会を設置しました。

総合計画審議会とは？

新しい当別町総合計画の策定に関する事項について、町長の諮問に応じて必要な調査や審議を行い、町長に意見を答申する審議会です。

●総合計画審議会委員構成

役職	所 属	氏 名	役職	所 属	氏 名
会長	北海道医療大学	廣重 力	委員	当別町女性団体連絡協議会	東谷 たまえ
副会長	当別町商工会	河村 佳男	委員	当別町子ども会育成連合会	小川 忠司
委員	北石狩農業協同組合	川原 博志	委員	当別町PTA 連合会	安藤 頼孝
委員	当別土地改良区	山田 智	委員	当別町体育協会	宮永 雅己
委員	当別町観光協会	重原 禅	委員	当別町文化協会	中野 政幸
委員	当別消費者協会	下段 キミ	委員	当別町都市計画審議会	辻野 修
委員	当別町社会福祉協議会	泉亭 俊徳	委員	当別町政策評価委員会	江口 正尊
委員	当別町民生児童委員協議会	東方 紘	委員	まちづくり町民検討会議	目黒 敏弘
委員	当別町ボランティア連絡協議会	渡辺 ヨキ子	委員	公募	石本 留美子
委員	当別町行政推進員連絡協議会	鈴木 智久	委員	公募	安達 史子

第1回会議を開催（2月19日）

町長から各委員へ委嘱状を交付し、会長、副会長を選任しました。その後、総合計画策定に向けた考え方、今後のスケジュール、町民まちづくり検討会議が提言書としてまとめた「当別の未来 これからのまちづくり」などについて事務局から説明をしました。

◎会議での委員からの質問事項

Q 計画期間を概ね10年としているのは、期間の途中で新しい計画を策定することも有り得ると言うことか。

A 過去の総合計画でも社会情勢の変化などにより期間を前倒して次の計画を策定した経緯がある。次期総合計画も柔軟に対応ができるよう概ね10年としている。



当別まちづくりフォーラムを開催

新しい総合計画策定事業の一環として「みんなで考える これからの当別」をテーマにまちづくりフォーラムを2月22日に開催し、町民の方約70名が参加しました。



基調講演では、酪農学園大学環境システム学部松本 懿^{あつし}教授より「これからの地域づくりは町民が主人公となって積極的に行動することが求められ、人を動かす、まちを動かす仕組みづくりが大切」と住民参加の必要性を訴えました。

パネルディスカッションでは、まちづくり町民検討会議の3名の方がパネリストとなり、「これからは地域における防犯などの取り組みが大切である一方、町内会への加入率の低下などは、住民主体の地域づくりを進める上での課題」など、さまざまな意見が出されました。

当別町住民意向調査 調査結果

新しい総合計画の策定に向けて、町民のまちづくりに対する考え方や意見を整理・把握し、今後のまちづくりの方向性や課題への対応を検討するうえでの基礎資料とするため、町民アンケート調査を実施しました。調査結果の一部を紹介します。

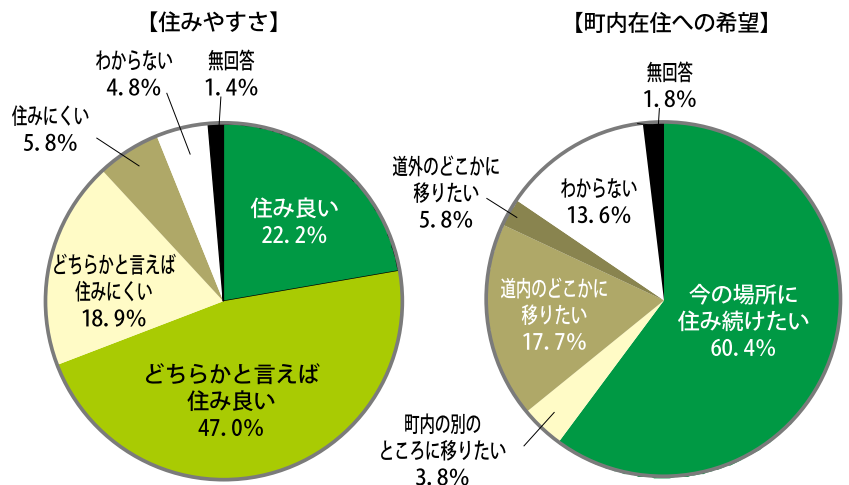
町民アンケート調査 調査結果概要

- 対象 当別町在住の18歳以上の男女3,001人（無作為抽出）
- 時期 平成19年9月20日（木）～平成19年10月19日（金）
- 方法 郵送調査法、自記式
- 回収数 1,209件（回収率：40.3%）

当別町の生活環境

約7割が「住み良い」と回答している
購買力は札幌や江別への流出が大きい

- 回答者の6割が、今後も「今の場所に住み続けたい」と回答。
- 町外に移りたいとした回答者からは、その理由として「交通の便が悪い」、「買い物や娯楽の場が少ない」（それぞれ39.4%）が多く挙げられている。
- 太美市街地、スウェーデンヒルズ、西地区農村部では、食料品を含め、札幌への購買力の流出が顕著にみられる。



当別町の将来像

自然環境を維持しつつ、ひとに優しい安心・安全なまちへ

- 将来目指すべきまちの姿は、「豊かな自然環境が守られているまち」（38.9%）、「お年寄りや障がいを持つ人が大切にされるまち」（29.4%）、「災害や犯罪がない安心・安全なまち」（24.8%）が上位を占めている。
- 30歳代の回答者では「子どもたちを伸び伸びと育てることができるまち」が多くなっているほか、農村部では「農業を中心とした産業が発展しているまち」との回答が多くみられた。



施策の現状評価と今後の重要性

生活環境は概ね満足している

今後は保健・医療・福祉の充実が求められる

重点的に取り組むべき施策を抽出するため、施策項目ごとに満足度、重要度の偏差値を算出し、全項目の総体的な位置づけがわかるよう、満足度、重要度を軸として図表化を行いました。

重要度 高 満足度 低

町民の関心度は高いが満足度は低い項目例)
2-⑦ 緊急時の医療体制
3-⑤ 雇用の場の確保

2:保健・医療・福祉(●)

満足度 高 重要度 高

町民の満足度も関心度も高い項目例)
1-⑩ 安全・安心な食生活
2-① 福祉サービスの提供

1:生活環境(▲)

重要度 低 満足度 低

町民の関心度も満足度も低い項目例)
3-⑥ 小売店の充実
4-⑨ 芸術・文化を楽しむ施設

3:産業・雇用(◆)

4:教育・文化・スポーツ(■)

満足度 高 重要度 低

町民の満足度は高いが重要度は低い項目(既に達成したと思われる項目)例)
1-⑨ 地域集会施設の整備
4-⑫ 公共スポーツ施設の整備

●各施策項目における満足度・重要度の評価得点の偏差値

	施策項目	満足度	重要度
1 生活環境	①自然環境の保全	62.7	48.0
	②生活環境づくり	65.5	37.3
	③美しい田園風景	63.4	40.0
	④美しい街並み	55.0	36.6
	⑤ごみの少ない生活	52.0	54.7
	⑥安全な道路の整備	41.8	54.9
	⑦公共交通の整備	40.9	52.6
	⑧身近なところでの買物	54.0	46.1
	⑨地域集会施設の整備	69.4	33.1
	⑩安全・安心な食生活	65.2	57.2
	⑪水の安定供給	56.7	64.7
	⑫防犯体制・設備の整備	51.1	61.7
	⑬防災対策	50.5	63.9
2 保健・医療・福祉	①福祉サービスの提供	56.6	60.8
	②高齢者、障がい者が住みやすい環境	52.8	50.5
	③高齢者、障がい者が集う環境	48.9	55.3
	④子育て支援体制の整備	49.7	56.8
	⑤働く女性の子育てや男性の育児参加の環境整備	42.1	52.2
	⑥医療環境の整備	48.9	66.0
	⑦緊急時の医療体制	39.2	68.4

	施策項目	満足度	重要度
3 産業・雇用	①農林業の活発化	42.2	51.1
	②農林産物の全国での認知度	42.1	42.8
	③産業界による活発化	33.1	48.7
	④観光客の増加	39.5	33.5
	⑤雇用の場の確保	25.5	58.3
	⑥小売店の充実	26.9	44.7
4 教育・文化・スポーツ	①子ども達が学力等を身につける環境	47.3	56.7
	②楽しい学校生活づくり	55.0	56.2
	③障がいのある子ども達の指導体制	47.5	55.6
	④幼稚園・保育所等の施設整備	50.6	54.7
	⑤小中学校等の教育施設整備	57.0	56.0
	⑥公園等子どもの遊び場の整備	57.0	47.6
	⑦だれもが学習できる機会	46.5	43.0
	⑧芸術・文化に親しむ機会	46.2	36.2
	⑨芸術・文化を楽しむ施設	42.0	35.3
	⑩町の歴史・伝統・文化の理解・伝承	45.0	35.0
	⑪スポーツ等の活動を親しむ機会	54.2	38.1
	⑫公共スポーツ施設の整備	60.8	40.8

※偏差値50.0を平均値とする

1 生活環境

- 道路や公共交通の整備を除けば、総じて生活環境の満足度は高い。
- 水の安定供給と防災・防犯関連施策が重要と捉えられているほか、ごみ対策、道路・公共交通関連施策に対する関心も高い。
- 景観関連施策は、満足度が高い反面、重要度は低い。

2 保健・医療 ・福祉

- 「福祉サービスの提供」の満足度はやや高い。
- 「緊急時の医療体制」や「働く女性の子育てや男性の育児参加の環境整備」の満足度は低い。
- 保健・医療・福祉分野に対する関心が高い。特に、「緊急時の医療体制」、「医療環境の整備」については、全項目中でも重要度が高い。

3 産業・雇用

- すべての施策項目において満足度は平均値を下回っており、全項目中下位3項目が産業・雇用分野となるなど、厳しい評価となっている。
- 重要度は、「雇用の場の確保」で高いほかは分野全体で低い。

4 教育・文化 スポーツ

- 満足度は、ばらつきがあるものの、全体的には平均値周辺に位置している。
- 重要度は、学校教育に関連した項目と社会教育に関連した項目ではっきりとした差が出ている。学校教育関連項目は重要度が高い。一方、社会教育関連項目は平均値を大きく下回っており、文化やスポーツなどの分野において町民の関心が低い。

これから重点的に取り組むべき施策

子育て

「保育料・教育費の負担の軽減」(40.1%)、「児童手当や医療費・出産一時金などの助成の充実」(37.6%)など、経済的負担の軽減支援に対する回答が多い。

安全・安心 な まちづくり

「防犯灯や街灯などの整備」(29.8%)、「常備消防・救急業務体制や消防団の体制の充実」(29.3%)、などが上位を占めている。

健康な 生活

「健康診断などによる病気の早期発見・予防事業の充実」との回答が半数を超えており、健康診断の実施などに対するニーズが高い。

老後の 不安

「介護が必要になったときの支援体制」(45.2%)、「年金などの経済的なこと」(44.7%)の回答が多い。

環境問題

「ごみ減量化を図るための、資源ごみの分別リサイクルの推進」(41.4%)、「不法投棄などの監視活動の強化」(33.7%)など、ごみに関する取り組みが求められている。

産業振興

「基幹産業である農業を活かして、食品関連産業を盛んにする」(29.4%)、「域内循環・地産地消による農業・商工業を中心とした産業の活性化」(19.2%)との回答が多く、農業を軸に据えた産業振興に対する関心が高い。

地域間 交流

「小中学生・高校生など若者の交流をより深める」(国際交流：21.5%、国内交流：19.9%)との回答が最も多くなっており、教育的視点での地域間交流に対する取り組みが求められている。

◎アンケート結果の公表 調査結果の詳細は、町のホームページで見ることができるとともに、企画課（役場2階）で配付しています。
▼問合せ先 企画課総合計画係
☎ 23 - 2393 / FAX 23 - 3206 /
E-mail soukei@town.tobetsu.hokkaido.jp